



二十三日供養塔（北原三社権現）

月の出を待つものである。日の取り方も地方によって違い、昔は十九夜待、二十二夜待講は多く性談をして安産を祈るので産泰講ともいわれ、所によっては片膝を立てた如意輪観音の姿が無痛分娩の姿勢であると信じられていた。月待供養は町内で今なお続けられている所もあり、男は年令に応じて幾組かの三夜待講を作り、女はお六夜さんと称して組ができ、今は本来の信仰は失なわれて毎月各戸回して場所をきめ、飲食談笑を楽しむという一種のレクリエーションといつてよい。



高城寺地藏尊

三 木像と金像

1 高城寺地藏尊

高城寺の本尊は釈迦如来、観世音、地藏菩薩の三尊であるが、その中の地藏菩薩像は地藏木像中の傑作といわれている。胎内背面に「地藏命」の墨書銘があり

又座具板に

『本物は「うんけいさく（運慶作）」御つくろい（御繕）は「寛文六年ひのうまとし（丙午年）」さいしき（彩色）仕候「京丈仏」仏師□□□□月□□』との墨書銘がある。※（ ）内は註釈

寛文三年（一六六三）には大木惣右衛門の肥前古蹟縁起があるが、それには当時の寺仏に運慶作とはなかったらしく、仏師七郎右衛門の推定かも知れない。松材の寄木作りで、玉眼を入れ像の高さは六十八センチ、寛文六年に彩色修理されている。

2 水上懸仏

昭和二十六年六月十二日、当町水上の彦山権現の小祠に奉納されていたものが発見され、県下で知られている懸仏の中で最古の紀年銘を有するものである。全部鑄銅で鏡板は銅板の周縁を更に帯状銅板で縁取りして鋳留とし、上方二か所に獅子咬を付け吊手をつけてある。御聖体は薬師如来像である。左右二個の花瓶の中一個がなくなっている。鏡板の径は約三十七センチ、厚さ約一ミリ、薬師如来は台座よりの総高約二十センチでその鏡背に

御鏡一面

右意趣者為除平氏女三十三厄

并千代松御前御息災延命

増長福寿心中所願成就如件 敬白

文永八年七月十五日（一二七二）

とあるが、この懸仏がどこの寺社に奉納されていたか、平氏女や千代松御前が誰であるかはわからない。

約七百年前の懸仏として、他に類例のない貴重なもので、県の重要文化財に指定され、県立博物館に寄託されている。（扉写真に掲載）



僧形の座像（実相院）



十一面観世音（実相院）

5、実相院十一面観世音

実相院の石段下に観音堂があり、そこに等身大の寄木作りになっている十一面観世音像がある。雨漏りのためか相当ひどく痛んでいる。実相院の記録では奈良時代の天平年間作となっているが専門家は平安時代藤原期の作とし文化財として注目されている。川上社文書に「十一面大士は異国征伐の軍神としてここに垂跡……」明応七年（四九八）九月吉日、下野守満門の願文があるが、若しこれが現存する十一面観世音とすればこれは室町末期であり、創建の年代が余りに違うので今後更に調査研究を要するようである。

6、実相院僧形の座像

木像の高さ三十一センチ、膝張二十センチ、法衣の座像で膝裏に墨書銘がある。佐賀市北川副町木原山王の御神体



十六羅漢の一部（玉林寺）



実相院女神像

時代も相当古く又すぐれた神像である。松材の一刀彫で高さ二十六センチ、膝張約二十センチ、胡粉の上に彩色してある。

3 玉林寺十六羅漢

以前は玉林寺山門に十六羅漢の彫像が掲げてあったが、今は山門はなくなり彫像のみ本堂に移されている。作者は不明。

三月の澄み渡った月夜に羅漢達の読経の声を聞くという伝説があり「経読み羅漢」ともいわれている。

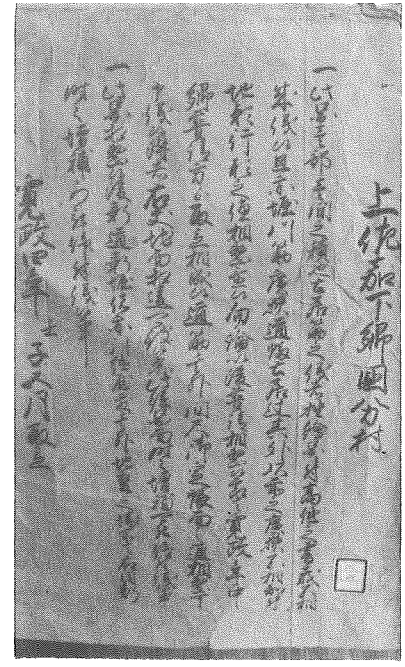
4 実相院女神像

唐服に宝冠をつけているようで、手には恐らく松扇があつたと想像される。膝のあたりの虫くい痛ましいが更に胸部は刃物で傷つけられたように見える。これは元亀元年（一五七〇）大友勢が乱入した時異教徒による刃物の跡ではなからうかとも言われている。

で北川副町福満寺の先師朝覚上人が、元亀元年（一五七〇）今山の戦火で焼失した実相院のお経会えの導師を勤めていた時持参したものと云われている。朝覚は少弐元盛の家臣で、今泉播磨守はりまのかみと称した侍であった。主家の再興を計ったがならなかったため仏門に入り、天正十四年（一五八六）五十二才で遷化せんげしている。

四 古絵図・古文書等

1 大和町関係の古絵図



国分村絵図解説の分

江戸時代に入って急速に発達したものの一つに地図がある。一国全域を地図化したものに国絵図くにえずがあり、村ごとに作られた村絵図、町を示した町絵図等がある。その外多様な絵図が残されているが、江戸時代の絵図は今日とやや異なり絵画的要素を多分に含んだ地図である。佐賀県立図書館にはこれら各種の古絵図が千百二十七点も所蔵されているが、これらの古絵図の中で大和町関係のものは次のとおりである。

国分村絵図、国分寺南方羽巢輪はすわ一带、福島村（天明六年）、川上宿一带（天明五年）、東山田（天明五年）、淀姫社北方（天明五年）、大願寺（天明五年）二枚、横馬場（天明五年）、今山（全前）、都渡城（天明六年）、下田一带（全前）、有木広坂（全前）井手原（全前）三反田（全前）、名尾四十坊（全前）

又この村絵図には一々作製上その他についての説明がつけられている。写真右上の文は

一、上佐賀下郷国分村 ※（一）内及び振り仮名は付記したもの
 一、此図壹部このずいちぶ（分）壹間之積也いつけんのかつりなり 土井筋之儀者控絵図二付高低之書載不相成儀候 且亦堀川筋広狭道幅土井辻其外以前之広狭不相知付地形行形之儘相整置候 勿論以後普請相整置候 節者寛政年中郷普請方も取立相成候 道筋其外間尺御定帳面之通相整置可申儀候得者 右丈地面相違可致候條 此絵図面時々増補可被仰付儀候事
 一、此図相整候 後新道新堀備亦引継屋敷其外地変之場所者右同断（同様）時々増補可被仰付儀候事

寛政四年壬子五月取立（一七九二）

のとおりである。この絵図を作ったものの道路や堀、屋敷等は異動があるので時々増補するようなど細かい配慮をしている。後に掲げた当町の村絵図は紙面の都合上全部掲載することはできないが、例えば立石から川上に至るほぼ一直線の道路は、河上神社の参道であったため、他の道路よりも道幅も広く、道の両側には杉の並木が描かれその間に松が点々と描かれている。ここを年二回の祭礼の時松明を